

伝承遊びゼミナール活動報告(第1報)

—昔話大型紙芝居「いたずらぎつね」制作から上演まで—

稲 員 祥 子

The Oral Tradition Seminar Activity Report(1st Report)

— Production Through Performance of the Large Scale
Picture Story Show “The Mischievous Fox”—

by

Shyoko Inakazu

要旨

本稿は、平成19年度より続けている保育学科ゼミナール授業活動に関する教育実践報告である。日本古来より伝承されてきた「伝承遊び」「昔話」「童謡」の良さに着目し、未来を担う子ども達に伝承する目的の下、筆者は「伝承遊びゼミナール」を担当している。本稿では、開講当初より、学生と共に様々な取り組みを行ってきた経過と、平成23年度の活動の内、「下関短期大学保育学科創作発表会」で発表した「昔話大型紙芝居」の制作・上演を詳しく報告する。「紙芝居を引き抜く時のワクワク感と昔話の魅力を子ども達に伝えたい」という学生たちの掲げた目標は達成できたと思う。今後は表現方法をさらに工夫すると同時に、保育現場における現状などにも目を向け、「伝承する」取り組みを続けたい。

キーワード：昔話、紙芝居、伝承遊び、ゼミナール活動、創作発表会

1. はじめに

1・1 次世代に伝える「伝承遊び」への取り組みについて

筆者の担当する「伝承遊びゼミナール」(以下「ゼミ」と記す)では、日本で古来より伝承されてきた「伝承遊び」「昔話」「童謡」の良さに着目し、活動を続けてきた。

五感を使って遊ぶ「伝承遊び」は、体力・運動能力・社会性・思考力・創造性など、子どもの成長発達を促す為に欠かせない重要な要素を多分に含んでいると考える。具体例を挙げると、

あやとり・お手玉・けん玉・コマ回し・ダルマ落とし・トントン相撲・ケンケン遊び・鬼ごっこ・缶けり・陣取り・割り箸鉄砲・花いちもんめ・だるまさんが転んだ・あぶくたった・かごめかごめ・手遊び・わらべ歌遊び等がある。

ゼミ開講当初の平成19年度は、まず学生自身が伝承遊びを体験し、その良さを味わうことを重視して取り組んだ。^{注1)}

翌20年度の創作発表会においては、来場の子ども達が伝承遊びを体験できるよう昔遊びのコーナーを設け、その準備と遊びの指導を学生たちが自ら担当した。

平成22年度は、実際に遊びを「伝承する」ことに重点を置いて活動を行った。下関短期大学付属第一幼稚園の放課後保育の子ども達を対象に、学生たちが遊びを構成し、一緒に遊ぶことを通じて伝承する取り組みを行った。また、子ども達だけではなく、保護者へも伝承遊びの良さを伝えたいとの思いから、栄養健康学科と合同で開催した公開講座「親子で学ぶ『食』と『遊び』」において、学生主導による「親子で楽しむ伝承遊び」や「父子で割り箸鉄砲を作って遊ぼう」という講座を設けた。

平成23年度は、前年度開催した公開講座を行うと同時に、3月11日の東日本大震災で被災した子ども達の為の活動として、ゼミナール学生が作った「割り箸鉄砲と的」を岩手県宮古市の3つの保育所に送付した。震災後の環境で過ごす子ども達に、子ども本来の「遊ぶ」力を発揮できる「伝承遊び」で思い切り楽しんで欲しいという願いを込めて制作した。^{注2)} この取り組みは平成24年度も引き続き行った。

1・2 「昔話」に関する取り組みについて

「伝承遊びゼミナール」では、日本の「昔話」についても取り上げてきた。大人から子どもへ、またその子どもへと語り継がれ、伝承されてきた魅力があると考えられるからである。「昔話」には何百年と語り継がれてきた日本人ならではの生活感や民族性、人間と自然や動物との素朴な関わりが感じられる。勤善懲悪の戒めや、物事の善し悪し、道徳性を促す教訓的な内容のものも多いが、ユーモア溢れる筋書きや語り口で、子ども達が楽しみながら知らず知らずの内に道徳心や規範意識を感じることが出来るところにその面白さがある。

開講当初の平成19年度は担当教員である筆者が「昔話」の絵本を読み聞かせたり、素話をする事で学生自身に「昔話」の良さを実感させることから始めた。

平成21年度、ゼミ1年生の夏休みに、「鬼」の登場する昔話を10話集めることを課題とし、同年後期、その内1話を1年生全員の前で朗読させた。昔話に関心を持った学生の発案で、創作発表会では日本人に馴染みの深い昔話10篇をそれぞれ1分間のパネル劇にまとめ、子ども達に題名を当ててもらい、という「1分間の昔話」を1・2年生全員でステージにて発表した。

平成23年度は、昔話の表現方法として「紙芝居」に着目。手に持って読み聞かせるのではなく、紙芝居専用の舞台を使用することになった。次の場面に移るまでのワクワクするような期待感、お話の世界に引き込まれるような想像性に魅力を感じた学生達の強い希望で、大型紙芝居を作成し創作発表会の舞台で演じることとした。

本稿では、平成23年度の活動のうち、大型紙芝居の制作から創作発表会での上演までについて報告する。平成23年度のゼミナール受講学生は、2年生3名（上村瑞希、田中園未、中田貴美子）、1年生2名（桐田礼絵、前田恵子）の計5名である。

2. 昔話大型紙芝居の作品紹介（あらすじ）

今回本稿で紹介する、平成23年度のゼミナール活動の一つである「昔話大型紙芝居」では、「いたずらぎつね」というお話を題材として選んだ。その、あらすじを紹介する。

「いたずらぎつね」（あらすじ）

山のきつねは、いろいろなものに化けて人間にいたずらをして困らせては喜んでいる。そこで、山寺の和尚さんと小僧さんは「いたずらぎつね」をつかまえてやっつけることになった。うまくだまして袋に詰めて、お寺に連れて帰ったものの、逃げ出したきつねは仏様に変身。右の仏様と左の仏様、どちらが本物か見分けがつかない。和尚さん・小僧さんときつねの知恵比べとなった。小僧さんの「うちの仏様は、お経をあげると片目を開けて合図をされます。」の言葉に、きつねの化けた仏様は、読経の最中にうっかり片目を開けてしまい正体がばれてしまう。和尚さんと小僧さんにほうきで叩かれ、やっつけられるきつね。「ごめんなさい」と謝るきつねを和尚さんは本堂の戸を開けて逃がしてやる。その後和尚さんは村にお経をあげに行った帰りには、きつねの分までお土産をもらって来るようになった。

3. 制作の過程について

大型紙芝居作成の過程は以下のとおりである。

① 下関短期大学付属第一幼稚園放課後保育において紙芝居の実演（「ねずみちょうじゃ」）

5月18日、下関短期大学付属第一幼稚園にて放課後保育の園児（年長・年中・年少児混合）対象に既製の紙芝居の読み聞かせの実演を体験させて頂く。題材は「ねずみちょうじゃ」。ナレーション、ねずみ、おじいさんなど、台詞は学生が役を決め、それぞれお面を付けて役になりきって読んだが、学生の姿に子ども達が注目してしまい、紙芝居そのものへの集中ができな

かった。この反省を活かし、大型紙芝居では読み手は姿を見せない方法をとることにした。

② 題材決定…「いたずらぎつね」

6月に入り題材を決定する。「ねずみちょうじゃ」は付属第一幼稚園で演じているので、それ以外のものにする。各ゼミ学生がそれぞれ紙芝居や絵本を持ち寄り、その中から「いたずらぎつね」に決定した。その選択理由は以下のとおりである。

<「いたずらぎつね」選択の理由>

- ・和尚さん、小僧さんときつねの知恵比べの駆け引きの面白さ。
- ・どこことなく憎めないきつねと、懲らしめたきつねを山に返す和尚さんの優しさ。
- ・いたずらは善くない事だと戒めるものであるが、教訓的に押し付けるのではなく、ユーモアたっぷりの展開の中で知らず知らずのうちに感じる事が出来る。
- ・動物と人間のどこか温かみを感じるつながり。昔は現代よりも自然や動物を身近に感じて暮らしていたことが窺える。

③ 紙芝居作成…作成の手順と主な材料は以下のとおりである。

1. ダンボール張り合わせ
2. 下絵書き（模造紙2枚分）
3. 輪郭縁取り（黒マジック）
4. 色塗り（ポスターカラー）
5. ダンボールに貼り付け（水糊、洗濯用糊）

枠から引き抜く瞬間の感動を子ども達に伝える為、本物の紙芝居のように厚みを持たせるよう、1枚1枚の絵をダンボールに貼り付けた。



写真1 制作中の大型紙芝居

近所の電気屋・スーパーマーケット等より不要になったダンボール箱を回収し、張り合わせるが、「重たい」「かさばる」「反り返る」等の難点が出てきた為、市販の大きなダンボールを購入し作成することに切り替えた。

④ 舞台作成…作成の手順と材料は以下のとおりである。

1. 枠作り（スチール棒）
2. 縁装飾（ダンボール）
3. カーテン（ピアノカバー・竹棒・荷造り用ビニール紐）

当初はダンボールで作成する予定であったが、強度を増すため、スチール製の枠組み用の棒



写真2 完成した大型紙芝居

を組み立て、ネジで固定して作成。紙芝居12枚をあらかじめセットできる幅の枠も取り付け。その上にダンボールで作った縁取りで装飾した。

本物の舞台により近づける為、開閉可能なカーテンを取り付け、物語開始時に開け、終了時に閉めるようにした。カーテン生地は不要になったピアノカバーを利用して縫い直し、カーテンレールは用務員室より借用した竹棒を使用、カーテンリングの代わり

りに荷造り用ビニール紐で取り付けた。身の回りにあるものを再利用することで、手作りの温かみのある舞台に仕上がった。開閉は手動だが、これもまた昔話ならではの素朴な雰囲気が出せると期待できるものとなった(写真1、写真2参照)。

⑤ 音響設定…バックミュージック(電子オルガン)

効果音(電子オルガン、キーボード、新聞紙、ボンボン、木魚)

当初はバックミュージックをCDより選曲していたが、より昔話の雰囲気を出す為、わらべ歌遊びの曲(「なべなべそこぬけ」「おちゃらか」)をモチーフに電子オルガンで演奏することに変更。効果音は、捕まったきつねがお寺の中で逃げ回る音は電子オルガンで演奏し、引き戸を開け閉めする音はキーボードの効果音を使用。和尚さんに化けたきつねが捕まった袋の中でゴツゴツと動く音は荷造り用の紐で作ったボンボンをこすり合わせ、最後にもとの姿に戻ったきつねを叩いて懲らしめる場面は新聞紙で壁を叩いて直接マイクで音を拾った。木魚は実物を利用した。

⑥ 照明設定…紙芝居の絵に集中できるよう、ステージと客席は暗くし、絵全体にスポットを当てる。

⑦ 導入・まとめ…きつね役を登場させ、物語へと誘う

「いきなり紙芝居を始めるより、導入・まとめがあると、子ども達の興味関心を引くのではないか?」という学生の提案により、紙芝居開始前にきつねの格好をした学生が登場し、お話の世界に誘い、終了後もきつねの登場で余韻を残して終わる手法をとることにした(写真3参照)。



写真3 きつね役の学生

⑧ 役割分担…語り1名、音楽（電子オルガン）1名、紙芝居操作2名、きつね1名、音響効果1名（きつねと二役）

⑨ 踊り

「紙芝居上演中は昔話に集中できるよう、きつね以外は姿を見せないが、最後は動きのある踊りを入れるとメリハリができ、終了した雰囲気が伝わるのではないか？」という学生の提案により、紙芝居上演後、きつね役・紙芝居操作役・語り手が紙芝居前面に登場し、音楽担当の演奏する「にんげんっていいな」の曲に合わせて踊りを踊ることにした。（但し最後は、余韻を残す為、きつねが舞台のカーテンを閉じてスポットを消し終了することにした。）

4. 前日リハーサル

現地（シーモール下関4階シーモールホール）のステージを利用しての前日リハーサルでは、照明担当の学生（他ゼミナール所属）と、スポットの位置や大きさ、ステージ上の照明の有無、暗転するタイミングなどを台本を参考に調整しながら決定した。また紙芝居舞台の両脇をカーテン等で覆ったついたてを立てるか否かを検討。舞台上手側は後が見えないようについたてを立て、下手側は紙芝居が引き抜かれる様子が見えるようについたては立てないことにした。

当初、紙芝居に子ども達が集中できるよう、きつね役以外はステージ上に姿を見せない予定であったが、急遽、音楽担当（オルガンと共に）・語り手をステージ下の下手側に出し、紙芝居上演中、スポットを当てる演出に変更した。その他の効果音は舞台裏で行うことにした（図1参照）。

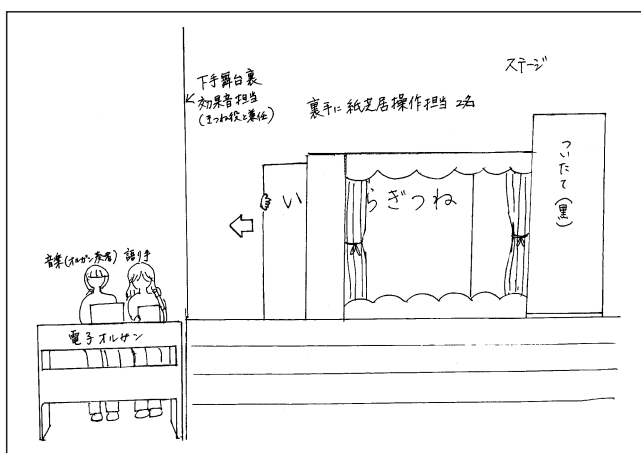


図1 ステージ配置図

5. 上演時の感想と反省

上演時の反省と感想について、1. 上演中の子ども達の様子と観客の感想、2. 発表後の本ゼミでの反省・感想、の2つの視点からまとめたい。

5・1 上演中の子ども達の様子と観客の感想

創作発表会本番では、子ども達はお話に引き込まれるように、静かに見入っていた。ダンスや合奏のような賑やかで子ども達のエネルギーを引き出すものとは対照的な、心の奥に入り込み働きかけるかのような光景であった。昔話の世界に子ども達を誘うことができたと思う。

客席で鑑賞していた教員より、「オルガンの演奏と、語り手の敢えて抑揚をあまりつけずに淡々とした語り口が雰囲気を出していて大変良かった」と好評を頂いた。

他ゼミ所属の学生からは、「きつねの登場により、昔話の世界に引き込まれた、内容も面白く興味を持って見る事ができた」と感想をもらった。子ども達だけでなく大人にも、昔話の良さを伝えることができたのではないかと思われる。

5・2 本ゼミナールにおける反省と感想

今回の大型紙芝居の発表後、本ゼミナールにおいて、以下の5つの視点から反省・感想を出し合った。その内容をまとめる。

- | |
|---|
| ① 舞台枠から紙芝居を引き抜く動作がスムーズに出来たか。その魅力を子ども達に伝えることができたか。 |
|---|

本番直前に舞台のボルトの一つがとれ、枠の一部がはずれかけるというハプニングが起こったが、ガムテープで止め臨機応変に対処し、事なきを得た。観客側からは気付かれる事無く、スムーズに紙芝居を引き抜く動作ができていた。

場面によって、引き抜く速さを変えたり、半分抜いて残りをさっと抜くなど工夫した。次の場面が変わる際に紙芝居が引き抜かれる様子が客席から見えるようにしたことも効果があった。今年のゼミ活動を始める際に一番大きく掲げていた、「紙芝居を引き抜く時のワクワク感を子ども達に伝えたい」という目的は達成できたと思う。

観客側からはスムーズに見えた引き抜く作業だが、実際には大変だった。絵の具や水糊の水分でダンボールが反り返り、枠に引っ掛かり易くなっていた。次回同様の物を作成する場合は、薄いベニヤ板を使用した方が良い。

② 紙芝居の操作とナレーション、音響のタイミングは合っていたか。

5人の息はぴったり合っていた。語り手のナレーションに合わせ、バックミュージック・紙芝居の操作・効果音が違和感なく行えた。

③ ステージ上での舞台の大きさは適切であったか。

会場の広さ、ステージの大きさに合って、大きすぎず小さすぎず、ちょうど良い大きさだった。

④ 昔話の世界に子ども達を誘うことができたか。

当初のCDを利用したバックミュージックでは、音楽が現代的すぎて昔話の雰囲気は出せなかったと思う。わらべ歌遊びの曲（「なべなべそこぬけ」「おちゃらか」）をモチーフに電子オルガンで演奏することに変更したことは大きな効果があった。

また、小僧さんが和尚さんに化けたきつねを袋の中に入れ、子守唄を歌いながらお寺に連れて帰る場面では、語り手がわらべ歌風に独自に曲をつけて歌ったことで一層雰囲気が増したと思う。

他ゼミ所属の学生から「きつねの登場により、昔話の世界に引き込まれた」という感想をもった。

以上のことから、子ども達を昔話の世界に誘うことが充分にできたと思う。

⑤ 昔話の良さ、面白さを、子ども達を始めとする観客に伝えることができたか。

上演中の子ども達の静かに見入っている様子から、子ども達に昔話の良さや面白さを伝えることはできたのではないかと思う。他ゼミの教員や学生の感想から、大人にも良さを伝えられたと思う。

6. 終わりに

平成23年度は、大型紙芝居の作成と上演という題材で取り組んだが、「昔話の面白さと、紙芝居を舞台枠から引き抜く瞬間の魅力を子ども達に伝えたい」という学生達の目的意識がはっきりしていた。学生の反省・感想の中で、「今回バックミュージックをCDの効果音からオルガンの生演奏に変えたことがとても良かったが、もし効果音もすべて語り手が声で表現するとどんな感じになるだろう」という意見があった。また「今回は紙芝居だったが、語り手が一人ステージの中央に座り、朗読するのも良いのでは」という意見も出た。「昔話」の表現方法に

については、今後もこのような学生のアイデアを取り入れて様々なものに挑戦したい。

題材の決定、材料の選択・準備、構成等々、試行錯誤を繰り返し、必要な場合は専門の教員に相談するなどしながら、ほぼ100%学生自身で進めてきたことを高く評価する。練習時間も学生同士で話し合い、積極的に練習に取り組んだこと、1・2年生それぞれが相手の思いを尊重し、協力できたことも大変良かった。

また、後日談であるが、本ゼミ学生との会話の中で、「保育・教育実習の際、保育室の絵本の棚に日本の昔話の絵本があまり無かった」という話になった。テレビ番組でも以前は「日本の昔話」を扱った番組があったが、最近はあまり見なくなったように思う。

「新しい絵本が数多く出版されていることが原因ではないか」、「子ども達は昔話に興味が無いと大人が勝手に決めてしまっているのではないか」、など様々な意見が出てきた。

また、「伝承遊び」と同様、核家族化が進み、大人から子どもへ伝える形が変わってきたことも背景にあるだろう。

今後は「昔話」についての保育現場での取り組みの現状や、保育者の「昔話」に対する考えについて調べることも大切ではないかと考える。

本ゼミナールでは、「日本で古くから語り継がれてきた昔話の良さを子ども達に伝えたい」と、これまで様々な取り組みを行ってきた。今後も方法や内容にアイデアと工夫を加えながら、「伝承遊び」と併せて、伝承する活動を続けたい。

謝辞

保育現場での実践の場を与えて下さった本学付属第一幼稚園安部明美園長、昔話大型紙芝居の制作に当たって、材料選び・舞台の枠作り・CDの録音など多岐にわたってご助言・ご指導頂いた本学保育学科長堀尾昇平教授、材料調達・音響調整等にご協力頂いた本学職員の方々、ダンボール箱を提供して頂いた電気屋・スーパーマーケットの方々に、心より感謝申し上げます。

注

- 1) 稲員祥子：「授業と保育現場における「伝承遊び」導入の試み」, 下関短期大学紀要, 第26号, pp99-111, 平成20年3月
- 2) 河野光子, 堀尾昇平, 稲員祥子, 高杉志緒：第3回作品展と工作体験「みて、つくって、楽しんで―被災地の子ども達を応援しよう―」開催報告下関短期大学紀要, 第30号, pp25-46, 平成24年3月

参考文献

- 川崎大治 脚本 久保雅勇 画：ゆかいな民話選「ねずみちょうじゃ」, 童心社, 1974. (紙芝居)
桜井信夫 脚本 藤本四郎 画 監修 松谷みよ子：わらいばなしがいっぱい「いたずらぎつね」, 童心社, 1984 (紙芝居)